

特別な体験

明見中学校

柏木 佑月

私はこの夏、日本から遠く離れたアメリカで 19 人の仲間と特別な体験をしてきました。生まれて初めて 9 日間という長い間、家族と離れて生活する事、言葉が通じないかもしれない事、不安ばかりでした。しかし、ほんの少しだけ、自分を変えられるかもしれないという期待も持って出発しました。

そんな 9 日間の中で、私が一番感じた事が多かった事は「人の温かさ」と「自分の知識の少なさ」です。アメリカでは本当にたくさんの人にお世話になりました。出会う人みんなが、わかりやすい英語で話しかけてくれたり、大丈夫かと体調を気づかってくれたりしました。スーパーへ行っても動物園へ行っても、私が日本人だと知ると、「遠くからよく来てくれました。良い日にしてね。」と気楽に話しかけてくれました。ホストファミリーにも、毎日体調を気づかってもらい、食事もおいしい物を用意してもらい、ショッピングなどにもつれていってもらい、たくさんの事をしてもらいました。しかし、それに対して私は「ありがとう」としか言えませんでした。今まで習った英語を使えばもう少し、コミュニケーションがとれたはずなのに、全然話す事ができませんでした。もっと話したい事があったのに、もっと伝えたい事があったのに、思うように伝えられないままでした。その時、すごく自分に無力さを感じました。また町を歩いてみて、信号が日本と違う事に驚きました。ショッピングへ行くと、物が大きい事に驚きました。自分には知らない事がたくさんあって、知っている事は、ほんの一部なんだという事に気がつきました。今回の事業では、人の温かさを改めて良いものだなと感じ、それとは逆に、自分の課題も多く見つかった体験でした。

私は、印象に残っている事が、いくつかあります。一つ目は、「地平線」です。今までに、水平線は見た事はあっても、地平線はありませんでした。日本で高い場所へ行くと、遠くに見えるのは、水平線です。しかし、アメリカでは、地平線が見えました。海が遠いから当たり前だったかもしれないけれど、とても印象に残っています。二つ目は、日本の事を教えたら、とても喜んでもらえた事です。私がお世話になったファミリーは、日本が好きで、日本へ何度も来た事があります。だから、日本の好きな場所について、たくさん話をしました。京都や日光、そして富士吉田。その他にも折り紙や忍者の事も話をしました。私は、私は、日本の文化を伝える事が今回の目的でもあったので、伝える事ができて良かったです。今回の事業で、見た物、食べた物、感じた事、すべてが新鮮で、良い経験になりました。

私は今回の事業で変わった事があります。何事も知らない事は、すぐに調べるようになりました。これは英語でなんて言うのだろうかと考えようにもなりました。少しだけ前向きになった自分がいるなと感じています。これからも、少しずつ成長していけるように、今回の体験を活かして、がんばっていきたいです。

最後に、家族のみんな、応援してくれた友達、学校の先生方、市の職員の方々、現地で私

達を迎えてくれた、たくさんの人、この事業に携わって下さったすべての人に感謝します。
貴重な体験をさせて下さり、ありがとうございました。